



TITLE:

1939年5月の天象

AUTHOR(S):

CITATION:

1939年5月の天象. 天界 1939, 19(216): 154-152

ISSUE DATE:

1939-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167789>

RIGHT:

早苗月 八十八夜や端午の節句を迎えて、五

月晴れの風を銜んだ鯉織りの勢もいい、一雨来れば、新緑に薫つた空気は、緑色に濕つて居る。少し汗ばむ様な青空の下に、フト目にとまつてスイスイと飛び交ふ蜻蛉の姿は、子供心を懐かしくさせる。

1939年

5月の天象

北から西空へ 季節は變つても、相變らない北極星から西北へ巡ると、先づ沈みかけた駁者が目に入る。其の左には双子座が「逆立ち」になつて居る。丁度眞西にはプロシオンが黄色く光つて居る。

南から中天へ 更に南へ廻ると、例の海蛇の頭の五星は、小犬に續いて下向いて來た。然し胴體は丁度グルツト南を這つて居る。其の下の地平線には、ケンタウルスが、半身を現らはせて居る。眞南に近い鳥は、四等星なのに、附近が淋しいから、歪んだ四角形が割合に目にとまる。

西南のやや傾いた位置には、獅子座が控へて居るのも頼もしい。北斗は天頂に近い。南中少し前の高い天には、アクトウラス、其の可なり南目の處にはスピカが居て、晩春から初夏の空に、色彩を施して居る。

東天 スピカの東、即ち東南天には天秤が高く昇つて居る。其の下の地平線からは蝎が半身を見せて來た。未だ氣味の悪い尻尾は出て來ないが、此の蝎りに刺されて死んだと云ふオリオンは、實際蝎の現れる前に西没してしまふ。蝎座を見ると何時も此の神話が思ひ出る。蝎座の左隣りの先づ東天と云つた所には、蛇遣ひ、ヘルクレス等が全貌を見せて居るが、肉眼的には面白い星座では無い。有名なヘルクレスの大球狀星團も、見頃になつて來たが、25 cm 級の器械でないと美観は味はへ無い。10 cm 位の口径では、ボンヤリした星霧狀にしか見へないが、15 cm 位になると一寸個々の星が見始める。

北東には、琴座のヴェガの七色にキラメクのが、夏のシリウスと云つた所である。否、其れよりも、もつと優美な感じがする。其れは名がさせるのか光が弱いからか、或はホノ暖かい初夏の宵のセイだらうか。

やがて白鳥や鷲等が、銀河の流れに副つて昇つて來やう。

太陽 月始めには“羊”座の中央、月末には“牡牛”座の中央へ移る。簡單

に表記すれば

日付	赤經 時 分 秒	赤緯 +11°44'	晝間 時間 分	夜間 時間 分	夕刻薄明終焉時刻 時 分
1	2 29 20	+11°44'	13 34	10 26	20 15
6	2 48 29	16 13	13 44	10 16	20 22
11	3 7 52	17 35	13 53	10 07	20 27
16	3 27 40	18 50	14 00	10 00	20 32
21	3 47 22	19 57	14 07	9 53	20 37
26	4 7 27	20 55	14 14	9 44	20 43
31	4 27 45	21 45	14 19	9 14	20 48

益々赤緯は昇つて、夜間は甚だ短くなる。北緯50°内外のヨロツバ中部では、月末になると完全な薄明終焉がなくなる。日本では気温が相當昇つて時には熱源性の雷雨すら發生する様になる。又時には五月晴れと云つて、快晴が旬日に及ぶ事もある。其れをすぎると、既に梅雨的の五月雨がそろそろ始まる。田植も近づいて來た。

月 月齡11.8の月が“乙女”座に始まり、一周以上して“天秤”座に終る。其の間の諸相を略示すれば（月齡、視直徑は日本中央標準時21^hの値）

日付	月齡	視直徑	時刻	星座	記事
4	14.8	31'40"	0 ^h	天 秤	滿 月（月食11）
11	21.8	29 33	14	水 瓶	最 遠
11	21.8	29 33	21	水 瓶	下 弦
19	0.3	31 40	13	牡 牛	新 月
23	4.3	32 27	21	蟹	最 近
26	7.3	32 23	8	六分儀と獅子の境	上 弦

である。闇夜の無い日、及闇夜は、夫々満月、新月の前後3日間である。5月3日夜半から翌4日にかけてこの皆既月食は、日本からでは久方振りの珍景である。（後章参照）

水 星 5月1日に曉天で最大離角25°に達する。場所は魚座の南、鯨座との境目の邊であつて、視直徑8"。其後再び太陽に迫つて外合に進む。

金 星 曉天に居て、益々太陽に近づく。17~8日頃には、水星と一寸接近する。視直徑は12."8~11."4、光度は-3.4である。（前月の視直徑15."4~12."3は15."4~12.8"に訂正）

火 星 益々接近して、本格的な觀測期に入つて來た。未だ曉天にあつて、“射

手”座の東端から，“山羊”座の西端に入るが，光度は $-0.2 \sim -1.4$ と急増して，誰しもの目を引く様になる．視直径も $11.''3 \sim 15.''5$ へと増加して来た．即ち月末には，冬期に於ける對衡の場合よりも大きくなつて来るのである．火星の世界では丁度秋分直前，南半球では極冠の縮少につれて，模様が濃くなつて来る．

木星 曉天の星．“魚”座の春分點附近に居るが，月末には少し見易くなる．

土星 同じく曉天の星であるが，太陽に近いから一寸見難い．

天王星 5月9日に合となる．従つて觀望全く不能．

海王星 相變らず“獅子座”に居るが，次第に太陽に近付くから，今月に見ておかないと，しばらく見られなくなる．

ユリウス日 5月1日21時が2429365.0に當る．

黃道光 西天の黃道光は大體消失し，5月は一寸中休みである．然し，6月にもなれば曉天に氣をつけねばならない．

彗星 ウィンネケ5月10日頃最も北に達して，ルーブルを描いて再び南下しだす．一寸未だ小さいから圖示の代りに豫報位置を示すと，

5月 1日	14 ^時 51.9 ^分	+45°47'	5月25日	14 ^時 50.3 ^分	+45°20'
9日	14 51.1	+46°42'	29日	14 51.1	+41° 4'
17日	14 50.1	+46°39'			

月食 非常に好條件の皆既月食が見られる．丁度5月3日～4日にかけての夜半に起る．時刻を示すと，

1. 半影部に入るのが	5月 3日 21 ^時 23.7 ^分
2. 本影部に入るのが（月が缺け始める）	22 27.6
3. 皆既になるのが	23 39.5
4. 食の最中央は	4日 0 11.2
5. 皆既の終るのが（生光するのが）	0 42.9
6. 本影部を出るのが（月が圓さをとりもどすのが）	1 55.0
7. 半影部を出るのが	2 59.6

以上の如くである．目に所謂食の明らかに見えるのは(2)から(6)まで，約3時間半珍景が見られる．猶ほ食の深さは1.182である．此の食を逃がすと，本年中，日本から見られる食は一度もない．